



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	異学年(小学校・中学校)交流授業の工夫：三つの実践から(個人研究・共同研究)
Author(s)	森, 顕子
Citation	東京学芸大学附属学校研究紀要, 36: 107-116
Issue Date	2009-06-00
URL	http://hdl.handle.net/2309/105235
Publisher	東京学芸大学附属学校研究会
Rights	

異学年（小学校・中学校）交流授業の工夫

— 三つの実践から —

東京学芸大学附属竹早中学校 森 顕 子

目 次

1. 授業実践例	108
1. 1. 漢字と音読（小学校5年～高等学校2年）	108
1. 1. 1. 実践の背景	108
1. 1. 2. 交流の形	108
1. 1. 3. 学習内容	108
(1) 単元・学習目標・教材	108
(2) 学習の流れ	108
1. 2. 詩の学習（小学校5年・中学校2年）	112
1. 2. 1. 実践の背景	112
1. 2. 2. 交流の形	112
1. 2. 3. 学習内容	112
(1) 単元・学習目標・教材	112
(2) 学習の流れ	112
1. 3. 読み聞かせ（小学校1年・中学校2年）	114
1. 3. 1. 実践の背景	114
1. 3. 2. 交流の形	114
1. 3. 3. 学習内容	114
(1) 単元・学習目標・教材	114
(2) 学習の流れ	114
2. 考察	116

異学年（小学校・中学校）交流授業の工夫

— 三つの実践から —

東京学芸大学附属竹早中学校 森 顕 子

昨今、小学校と中学校の「段差解消」という意味の言葉が用いられ、生活指導面のみならず、学習面においても、その連携の有効性が検討されるようになってきた。カリキュラムにまで手を広げなくても、日常の授業を工夫し、小中の授業担当者が協力し合うことで、小中異学年交流授業は成立する。日常的に授業は、発達段階に応じた同年齢で組織された学年集団で行われているが、ここに、小中異学年交流という視点を加えて行った実践を二例と、背景は大きく異なるが、異学年同時に授業を行わなければならない状況下での実践を一例、合わせて三例を通して、その有効性と方向性を考えたい。

1. 授業実践例

1. 1. 漢字と音読（小学校5年～高等学校2年）

1. 1. 1. 実践の背景（注1）

平成15年9月26日～10月6日の11日間、平成15年度在外教育施設巡回指導北米班（西地区）の一員として、カナダのカルガリー・バンクーバー、アメリカ合衆国のサンフランシスコ・サクラメントの4都市を訪れた。4校の補習授業校の実情に触れ、2校で授業を行ったが、その中でサクラメントのポート・オブ・サクラメント補習授業校における実践である。

1. 1. 2. 交流の形

補習授業校からの要望で、小学校5年生から高等学校2年生までの26人を1学級高学年クラスとして授業を行った。

小学校5年生：4名（男3・女1）、6年生：4名（男2・女2）、

中学校1年生：7名（男5・女2）、2年生：5名（男3・女2）、3年生：4名（男3・女1）、

高等学校2年生：2名（男1・女1）

1. 1. 3. 学習内容

(1) 単元・学習目標・教材

○特設単元 「国語を学ぶ楽しさを味わう」

○学習目標 ①漢字と遊び、楽しく朗読することで国語を学ぶ楽しさを味わう。

②ことばを学ぶ意義から、日本語を学ぶ意義について確認する。

○教材 ・「自分だけの国字を作ろう」…蚊取り線香、中学校3年生徒作品（勤務校）

・「詩の朗読」…かざぐるま、まど・みちお『かざぐるま』

・「言葉を学ぶことの大切さを確認する」…りんご、中学校3年生徒作文（勤務校）

蚊取り線香、かざぐるま、りんごは、いずれも実物を用意して提示した。小学生には特に、視覚的に訴えることの有効性を意識してのことである。

(2) 学習の流れ

平成15年10月4日（土）於：ポート・オブ・サクラメント補習校

国語を学ぶ楽しさを味わう（1／1）本時（小学5年、6年、中学1～3年、高校2年）

(一) 漢字と遊び、楽しく朗読することで国語を学ぶ楽しさを味わう。

(二) ことばを学ぶ意義から日本語を学ぶ意義について確認する。

	学習活動	指導上の留意点	板書事項
導入 3	1 自己紹介を聞く ・自分のこと、勤務校のこと、 アメリカの印象など	<p>■氏名の横に、ふりがなをつけて板書。</p> <p>■初めて出会う子どもたちで、また学年も幅があるので、やや下の学年に合わせた親しみやすい雰囲気を作り出す。</p>	あかおぎあきこ 赤萩 顕子 竹早中学校
展開 I 12	2 漢字の成り立ちに興味を持つ (1) 蚊取り線香が提示される	<p>■子どもから見えないところ(教卓の陰など)から提示し、注目させる。</p> <p>■用途、用法を簡単に確認する。</p> <p>◇導入として提示する。</p>	
5	(2) 漢字の「蚊」の成り立ちを確認する 低▽どうして「蚊」は「虫」偏に旁が「文」なのか 高▽「虻」の成り立ちを知る	<p>■特に挙手は求めないが、挙手があれば指名する。</p> <p>■指名は、できるだけ複数の学年に渡ること。</p> <p>■「蚊」と「虻」が似たような成り立ちであることに着目させる。</p>	蚊 虻
7	(3) 自分だけの「国字」を作る 低▽漢字はどこから日本へ ↓伝わったのか ▽日本でつくられた漢字 =国字 高 ・(例) 凧 ▽形が似ている漢字とその意味を考える →「凧」が「止」まる =海が穏やかだ=「なぎ」	<p>■特に挙手は求めないが、挙手があれば指名する。</p> <p>■指名は、できるだけ複数の学年に渡ること。</p> <p>◇ゲーム感覚で取り組めるようにする。</p>	国字 日本でつくられた漢字 (例) 凧 凧が 止まる 「凧」が「止」 =なぎ
	(4) 勤務校中学3年生徒作品 (選択国語での実践)を読む	<p>◇ゲーム感覚で取り組めるようにする。</p> <p>■あくまでもことば遊びであり、漢字の獲得数を増やすためであり、漢字に親しむことが大切であることを伝える。</p> <p>■「国字」をつくるためにはできるだけたくさん漢字を知っている方が、いろいろつくれることを実感させる。</p>	シンクロ レインコート サーフィン トランプ ジャム コーヒー カーテン ゴキブリ

<p>展開Ⅱ 28</p>	<p>3 詩の朗読を工夫し楽しく読む</p> <p>(1) 風車が提示される</p> <p>▽どんな感じで回るとよいか ・早く、元気よく</p> <p>(2) 詩を朗読する</p> <p>まど・みちお作 『かざぐるま』</p> <p>▽作者について ・「ぞうさん」の作詞者</p> <p>①範読を聞く</p> <p>②一斉読み</p> <p>③どういう詩か考える</p> <p>▽どう回っているか ・ぐるぐる ・勢いよく回っている ・たくさんの風車が回っている</p> <p>▽どんな感じがするか ・元気な感じ ・応援している感じ ・何か大事なもの</p> <p>④分担して音読し、声の重なりを楽しむ</p> <p>a 分担読み (男女別グループ)</p>	<p>■子どもから見えないところ(教卓の陰など)から提示し、注目させる。</p> <p>■実際に回してみせる。</p> <p>■教材文を配布する。</p> <p>■1分弱、口々に読む時間をとる。</p> <p>■興味付け程度に紹介する。</p> <p>■あまり偏らず、ゆっくりと声を張って範読</p> <p>■声がそろわなかったり、小さかったりしたときは、途中で止めるなど、しっかり音読</p> <p>■特に挙手は求めないが、挙手があれば指名する。</p> <p>■指名は、できるだけ複数の学年に渡ること。</p> <p>■詩を朗読するためのイメージをつかませる。</p> <p>■男女の読み分けの指示が書き込まれた教材文を配布する。</p> <p>■1分弱、口々に読む時間をとる。</p> <p>■とりあえず、声に出し、自分の担当部分を確認する。</p> <p>■場所を移動させる。</p> <p>■上級生の中でリーダーを決めて、自主的に練習させる。</p>	<p>かざぐるま まど・みちお</p> <p>まわれ、まわれ、 かざぐるま せかいの まんなかで、 はなに なれ。</p> <p>○どう回っているか ・ぐるぐる ・勢いよく回っている ・たくさんの風車が回っている</p> <p>○どんな感じがするか ・元気な感じ ・応援している感じ</p>
<p>3</p>	<p>▽男女に分かれて練習する</p> <p>▽発表する</p> <p>b 分担読み (学年別グループ)</p> <p>▽(2)③でくまわる></p>	<p>■人数のアンバランスを意識させないようにする。(男子17名、女子9名)</p> <p>■声をそろえる楽しさ、おもしろさを実感させる。</p> <p>◇一度席に戻す</p> <p>■(2)③の板書でおさえさせる。</p> <p>■学年ごとの読み分けの指示が書き込まれた教材文を配布する。</p>	

3	<p><ぐるぐる>に注目したことを再確認する</p> <p>▽学年ごとに分かれて練習する</p> <p>小5…4名 小6…4名 中1…7名 中2…5名 中3…4名 高2…2名</p> <p>▽発表する</p>	<p>■1分弱、口々に読む時間をとる。</p> <p>■とりあえず、声に出し、自分の担当部分を確認する。</p> <p>■場所を移動させる。</p> <p>■グループごとにリーダーを決めて、自主的に練習させる。</p> <p>■下級生（小5、小6）を中心にアドバイス</p> <p>■声をそろえる楽しさ、おもしろさを実感させる。</p> <p>■言葉に注目し、本文に少し手を加えることで詩のイメージが広がる読み方になることを体験し、それを楽しませる。</p> <p>■空間の中であちこちに飛ぶ楽しさを感じるために、グループごとに立ち位置を好きなところにさせる。</p> <p>■工夫して読む楽しさ、協力してつくりあげる達成感を味わわせる。</p> <p>◇席に戻す。</p>	
展開Ⅲ 7	<p>4 ことばを学ぶことの大切さを確認する</p> <p>(1) りんごが提示される</p> <p>(2) リンゴを自由に形容する</p> <p>・赤い、甘い、まるい、かたい…</p> <p>(3) 「赤い」に着目する</p> <p>▽友達の色とどう違うのか</p> <p>・濃い、黒っぽい…</p> <p>(4) 「国語を学ぶ楽しさ大切さ」について書かれた勤務校中学3年生徒作品（選択国語での実践）を聞く</p> <p>・日本語の響きの美しさ</p> <p>・ことばの成り立ちを知る楽しさ</p> <p>・いろいろな人の気持ちや</p>	<p>■子どもから見えないところ（教卓の陰など）から提示し、注目させる。</p> <p>■特に挙手は求めないが、挙手があれば指名。</p> <p>■指名は、できるだけ複数の学年に渡ること。</p> <p>■特に挙手は求めないが、挙手があれば指名。</p> <p>■ことばを組み合わせることで、自分が伝えたい内容に近づいていくこと、友達が伝えたい内容をより詳しく知ることができることを実感させる。</p> <p>■日本語の中で生活している同年代の子どもの考えを紹介する。</p> <p>■子どもたちの表情を見ながら、わかりにくい表現については補足を加える。</p> <p>■日本語の少ない環境だからこそできるだけたくさんのことばを持つ努力が必要であることを考えさせる。</p>	<p>りんご</p> <p>赤い、甘い、まるい、 ↓ 濃い、黒っぽい</p>

まとめ	考え方を知ることができる ・言葉を通して世界が広がる →読書のすすめ ・日本人として誇れるものの 一つが日本語	
-----	---	--

- 〔評価〕 (一) 漢字と遊び、楽しく朗読することで国語を学ぶ楽しさを味わえたか。
 (二) ことばを学ぶ意義から日本語を学ぶ意義について確認できたか。

1. 2. 詩の学習 (小学校 5 年・中学校 2 年)

1. 2. 1. 実践の背景

平成17年 9 月～11 月にかけて、「主体性を育む幼小中連携研究」という竹早地区における研究主題のもとで、国語科として小学校と中学校の交流授業を設計した。

1. 2. 2. 交流の形

小学校 5 年生 1 学級40名 (男20・女20) を 2 学級と、選択国語を受講している中学校 2 年生22名 (男11・女11) が前後期受講者をそれぞれ組み合わせて、小中合同学級を作った。学びたい詩ごとのグループの組み合わせで、小学生20名と中学生11名を合わせて31名の学級を 2 つつくり、それぞれを小学校と中学校の教師が担当し、授業を行った。

1. 2. 3. 学習内容

(1) 単元・学習目標・教材

○特設単元 「感じて表現する～詩の学習を通して～」

○学習目標 ①小中の交流を通して、作品を読み味わう。

②自分たちの解釈に沿って、その作品をどう表現するかを工夫する。

③発表会を通して、それぞれの表現の良さを認め合う。

○教材 ・工藤直子『のはらうた』より「はしる こいぬけんきち」、まど・みちお「さくらのなびら」、川崎洋「海」、木村信子「未知へ」、高丸とも子「おいで」

○教材選定の観点

- ・できるだけ自由に空想できるような幅のある作品
- ・あまり長くない作品
- ・小学 5 年生にも解釈できて、中学 2 年生も取り組める作品
- ・内容的に成長段階にふさわしい作品
- ・できるだけ多様なアウトプット(表現)のできる作品
- ・解釈が必要な表現が含まれた作品

○教材の決定

- ・小中の子どもたちに「好きな詩、小中交流授業で学習したい詩」を教師側が提示した 7 編から、第 2 希望まで選択させた結果で調整し、5 編の作品に決定した。

(2) 学習の流れ (注 2)

○全 4 時間 (事前準備として)

- ・5 編の詩の中から好きな詩を選ぶ
- ・昼食会の形で、グループごとに顔合わせをする
- ・自分の選んだ詩について、自分の読み (好きなところや好きな言葉、詩の解釈など) をワークシートに書き込む

	学習内容	期待される子どもの姿
1次 1時	<p>①今日の学習の流れを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・返却されたワークシートで、自分の感想を確認し、配布されたワークシート1を読む <p>②グループごとに作品を音読する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ隊形を着席（中学生が声をかける） ・個々に練習して、全員で音読 <p>③グループごとに作品の好きなところを発表し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生は進行と記録を担当し、小学生の意見を引き出す（ワークシート1を活用する） ・小学生は自分の考えを積極的に伝える <p>④グループごとに作品の解釈をまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな情景なのか、作者の気持ち等 <p>⑤感想・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート1に、作品の解釈と今日の振り返りを個別に記入する <p>⑥表現方法について知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布されたワークシート2を読む <p>⑦次時の予告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現方法とその内容について考える 	<p>(小中)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中の交流を通して作品を読み味わっている ・自分の考えを進んで発表し、相手の考えを受けとめている <p>(小)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生に対しても自分の考えを伝えている ・中学生の意見を聞き、解釈を広げたり深めたりしている <p>(中)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生に伝わるように話している ・小学生の意見に耳を傾けたり、引き出したりしている ・小学生の発想も含めて解釈を考えられている
2次 2時	<p>①前時に回収したワークシート1を返却し、簡単にコメントを述べる</p> <p>②今日の学習の流れを知る</p> <p>③グループごとに作品を音読する</p> <p>④グループごとに自分たちの解釈に沿った表現方法を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ隊形を着席 ・中学生は進行と記録を担当し、小学生の意見を引き出す（ワークシート2を活用する） ・小学生は自分の考えを進んで伝える 	<p>(小中)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いに意見を交換し、ふさわしい表現方法を考えている ・自分たちの解釈にふさわしい表現を工夫している ・お互いに相手の立場を考えながら、話し合っている <p>(小)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理由をはっきりさせて、自分の考えやアイデアを話している
3時	<p>④発表に向けて分担、作業、練習を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜこの表現方法を選んだのか等、具体的な解説も書く <p>⑤感想、評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート2に、表現方法についてと今日の振り返りを個別に記入する <p>⑥次時の予告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表内容について考えてくる ・次時に発表会を行うことを知る 	<p>(中)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生の思いやイメージを受け止め、形にまとめている

3次 4時	①前時に回収したワークシート2を返却し、簡単にコメントを述べる ②今日の学習の流れを知る ・配布されたワークシート3を読む ③グループごとに発表練習を行う ・グループ隊形で着席 ・中学生は進行と記録を担当し、小学生を支援する・小学生は自分が考えてきた内容を進んで伝えるようにする ・小学生からもアドバイスをしていく ④グループごとに発表する ・小中協力して発表する ・他のグループの発表を聴いて、感想をもつ ⑤感想、評価 ・ワークシート3に発表について、別紙にこの学習についての振り返りを個別に記入する	(小中) ・小中の交流を通して、よりよい表現を工夫している ・発表者の思いを受けて止めてきちんと聴いている ・それぞれのグループの解釈と結びついた表現の良さを見つけている ・異学年で学習することや自分の思いや考えを相手に伝えることについて振り返っている
----------	--	--

1. 3. 読み聞かせ (小学校1年・中学校2年)

1. 3. 1. 実践の背景

平成19年3月、小学校からの声かけで、小学校1年生と中学生の交流授業をということで設計した。

1. 3. 2. 交流の形

小学校1年生1学級40名(男20・女20)の2学級へ、中学校2年生42名(男21・女21)を2学級、それぞれ1学級ずつ訪問し、中学生のグループが小学生のグループを順次回っていく形で授業が進んだ。

1. 3. 3. 学習内容

(1) 単元・学習目標・教材

○特設単元 「ご本を読もう」

○学習目標 <小>読書体験を広げる <中>相手意識を持って朗読する

○教材 中学生が小学生のために選んだ本

(2) 学習の流れ(0次(中学): 班に分かれて分担・練習…30分間) 2007(H19)年3月12日(月)3・4校時

	学習活動	指導上の留意点	板書計画
導入	○出席確認(班長が報告) ○本時の学習の流れを知る ・小学生と挨拶をする(総務委員)	・班長による出席確認を行う	<事前板書> ・座席表
展開	○グループごとに順番に読み聞かせを行う	・班長(中学生)が、小学生に呼びかけて着席する ・中学生が小学生の班を、順番に回っていく	
まとめ	○小学生は座席に戻る ・挨拶をする(総務委員)		
	○ワークシートの感想と振り返りを提出	・中学校の教室に戻ってから記入する。	

○中学2年生は男女混合で4～5人1班（小学1年生は4人1班の10班編成）

	書名	選択理由
A1	フレーベル館『ねこさかな』	・自分が1年生の時に読んでおもしろかったから
A2	コーキ出版『ちょっとかわったレストラン』	・小学生が興味を持ちそうな内容 ・絵が大きく内容が把握し易い
A3	文溪堂『バスとケロのにちようび』	・絵がとてもかわいらしい ・僕のイチオシ
A4	アートデイズ『サンタの国の12ヶ月』	・「キイチゴ〜」という歌の部分が気に入ったので
A5	童心社『14ひきのあさごはん』	・私が小さい時に読んでもらったお話だから
A6	あすなろ出版『急行 北極号』	・子どもたちの夢を見守れるようなお話を選んだ
A7	福音館『そらまめくんとめだかのこ』	・自分が小学生の頃大好きだったので楽しんでもらえると思った ・知っている子も多いと思うが、私達が読んであげることで、新しい楽しさを知ってもらえたらいいと思う。
A8	福音館『めっきらもっきらどおんどん』	・自分が小さかった頃に大好きだった（覚えるくらいまで読んだ）
A9	福音館『どろんこハリー』	・小学生の妹が1年生の頃好きな本だったから
A10	講談社『ママよんで！ディズニー名作童話』	・ディズニーはみんなが知っている ・ちょうどよい長さ ・みんなが喜ぶと思った
C1	学研『パパはウルトラマンセブン』	・簡単そう ・ウルトラマンの話 ・この本からいろいろ感じて欲しいことがある (他人の気持ちを考えること、親の大切さや感謝の気持ちなど)
C2	金の星社『ゴリラのパンやさん』	・物語の最後がとても微笑ましい ・イラストの色づかいがきれい ・「友達の見つけ方」がテーマだから ・心に強く残った文（外見、生まれ、育ちなどで相手を評価してしまいがちです。（人は。）…「ゴリラのおじさん、あんぱんちょうだい」と言った、こうさぎたちが、大人になってもその「心の目」をなくさずにいてくれることを、私は強く願っています。）があったから
C3	ほるぷ出版『ラプンツェル』 『てぶくろ』	『ラプンツェル』・絵がすてき ・わかりやすそうな話 ・名作だけどあまり知らないようだから ・グリム童話のすばらしさを小学生わかってほしい 『てぶくろ』 ・素晴らしい名作
C4	ポプラ社『ふゆのよるのおくりもの』	・絵がかわいい ・本の大きさにインパクトがあった
C5	好学社『スイミー』	・小学校の学芸会などでやっていることが多い ・ストーリーがとてもおもしろい

C6	講談社『バーバパパのしまづくり』	・悩んだが、馴染みのあるキャラクターの出る話には親近感がわくと思った ・絵に見甲斐があっておもしろい
C7	大日本絵画『びよんたのたいそう』 金の星社『ないた』	『びよんたのたいそう』 ・初めて読んだが、一気に好きになった ・絵と仕掛けで表現されていてとてもおもしろい ・動かない絵では飽きてしまう子もいると思うので、みんなの興味を引きつつ楽しんでもらえればいいと思う 『ないた』 ・多少シリアスな話だがおもしろいので。 ・小さい子はよく泣くので「泣く」ということに疑問を持ってもらえればいいと思った。そして、大人はどうして泣かないのか、自分はどうして泣くのか、主人公と一緒に考えてくれたらいいなあと思った。
C8	日本図書センター『ぼくの犬』	・自分が感動した本で、その感動を小学生にも伝えたい
C9	ポプラ社『すみっこのおばけ』	・大きい本で見やすそう ・全部ひらがな
C10	評論社『わすれられないおくりもの』	・有名 ・好き ・小さい子にもわかりやすい内容

2. 考察

1. 1. は日常から異学年が同じ教室で学んでおり、事例としては特殊である。しかも、小学校5年生から高等学校2年生までを1学級としての実践であったため、年齢の低い子どもたちと高い子どもたちの双方共に興味を抱けるような工夫が求められた。しかし、異学年での授業に子どもたちが慣れてきたことは大きく、1時間の特設授業に対する受け入れ体制が整っており、授業の運びはスムーズで、学習目的を達成することができた。欲張った内容であったが、ここで行った内容を個々に慣れていない集団に生かすことができると考えている。

一方、1. 2. は初めての組み合わせであることから子どもたち同士が心を通わせるまでに時間を必要とした。特にグループ活動をメインとし、しかも中学生が教える一方ではない場面を作っていくことも子どもたちに求めたことから、小学生中学生がお互いにきちんと考えたことや感じたことを言い合える場としてのグループの関係を構築するのは大切な過程であったと思う。事前に昼食会をセッティングし、まずは名前を覚えるところから始まった。しかし、これは違う集団であったとしても、類似した体験を積むことで、事前の交流場面を持たずとも、活動の中でお互いを認め合えるようになるのではないかと思われる。

1. 3. は中学生にとっては、相手意識を核として本を選び、朗読の工夫をして、小学1年生に読み聞かせを楽しんでもらう、というゴールが明確であったことから取り組みも積極的であった。グルーピングを行ったあと、事前に選んだ本を工夫して様々な形での朗読を行っていた。朗読の内容だけではなく、本の持ち方や、立ち位置、身振り手振りまで考えて、当日に臨んでいた。実際に小学校1年生が目を輝かせて真剣に聞いているのを見たり、朗読の合間にお話しをしてあげたりと、自分たちの活動に率直な反応がすぐに現れたこともあって、最後まで誠実に取り組めた。

この3つの事例は何れも、小中の教育課程を検討してからといった大上段に構えたものではなく、その集団に合った形で小学校と中学校の担当教師の間で相談され、設計された授業である。そして異学年であることが、何れの活動においても有効に働いている。子どもたちも教師もこういった実践体験を積み重ねていくことで、より工夫された更に有効な小中の異学年による交流授業が成立すると考える。

- 1) 赤荻顕子「補習授業校の子どもたち」東京学芸大学教育学部附属竹早中学校 研究紀要 第42号 p23～33
- 2) 2005年11月11日東京学芸大学附属竹早幼小中連携公開研究会にて発表した。